



すぎ たに いく お
杉 谷 育 生

しん わ かい
津 和 会

子育て支援としての 保育施策を

問 少子化対策として、第1子、第2子の年齢に関係なく、第3子以降の子どもについては、利用者負担額（保育料）の無料化を実施し、将来を担う子どもたちを産み育てやすい施策を実施すべきと考えるが、いかがか。

また、全ての幼稚園において延長保育を実施するとともに、水曜日も延長保育が実施できるよう職員配置を整えるべきではないか。

答 保育園や幼稚園において、第3子以降の子どもを無条件に無料化することについては、私立幼稚園の就園奨励補助金や保育所、認定こども園等との整合性、実施に伴う財政面の影響、幼児教育の無償化に関わる国の動向なども踏まえ慎重に検討する必要があるものと考えている。

また、幼稚園における預かり保育を現在11園で実施しているが、未実施の地域については、実施に向けて関係機関との協議を進めていきたいと考えている。なお、11園での水曜日の預かり保育はこれまで未実施であったが、平成27年度から実施しているところである。職員配置については、今後、現場の状況を十分に見極めるとともに、職員の声に耳を傾け、適正な職場環境となるよう努めていく。

●その他の質疑・質問●

- 少人数幼稚園への入園PRをもっとすべき
- 第2子以降の育児休業で現入園児を退園させないように
- 公共施設に建設する駐車場は立体駐車場を検討すべき
- 国県補助の農林事業は補助額を除いた額に受益者負担率を
- 保水、洪水、獣害に対する森林整備をすべき
- 入札制度の検討を など



▲幼稚園でも毎日16時までの延長保育を



ふじ もと とも こ
藤 本 智 子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

3年後の供用開始に向け 下水道事業の推進を

問 遅れに遅れていた志登茂川流域下水道の供用開始が3年後となり、供用開始に向け、いっそうの整備促進が必要であると考え。供用開始予定地域や処理人口等を明確にした上で、整備を促進すべきである。

また、アクションプログラムの見直し時期にも来ているが、生活排水処理率を引き上げるためには、体制を整えて臨むべきではないか。

答 現在、三重県が平成29年度末の供用開始に向け、志登茂川浄化センターの工事を進めているところであり、志登茂川処理区における供用開始予定地域は、白塚町、河芸町中別保、安濃町曾根などの地域の一部となる。整備予定面積841.5haのうち23%の約191haが供用開始予定。処理人口は約8,000人を見込んでおり、三重県の流域下水道事業の進捗状況と調整を図りながら、供用開始に向けた取り組みを進めていく。

また、生活排水処理に係る体制については、平成27年度から下水道総務課の生活排水推進担当を5人増員しているが、業務量が過剰な状態となった場合には、下水道局内の応援体制により対応していきたいと考えている。

●その他の質疑・質問●

- 団地集中浄化槽の市への移管において、誤接等改修への補助制度を
- 学童保育事業に公的責任を
 - ひとり親家庭への補助制度の導入を
 - 待機児童解消に向けた対策を
 - 指導員の待遇改善を
- 中勢用水の水不足への対応を
- 県道穴倉南神山津線の整備促進を など



▲サンシの交差点（殿村北）までの拡幅を早期に